

令和3年度夏季展

# 美しき備え

## —大名細川家の武具・戦着—



とりげくようもんつきじんばおり  
「鳥毛九曜紋付陣羽織」 細川斉樹所用  
桃山～江戸時代  
(16世紀末～17世紀前半)  
永青文庫蔵

2021年7月23日（金・祝）～9月20日（月・祝）

### 大名細川家の個性豊かな武具の数々をご覧ください。

戦国時代、武将は数多くの武具・戦着を誂いくさぎえました。武具とは鎧・兜などを、戦着とは陣羽織・鎧下着などを指します。それらは、命を守るための優れた機能性だけでなく、外見や意匠にも独創的な工夫が凝らされ、軍や自らの士気を高める役割を果たしました。泰平の世が続いた江戸時代も、武家の格式を象徴的に示す大切な道具として、代々が創意あふれる武具を備え続けました。そのため大名家には、武将の美意識を反映した個性豊かな武具・戦着が残されています。

永青文庫にも、大名細川家の歴代藩主が所有した武具が多数伝わります。本展ではその中から、2代・忠興ただおき (1563～1645)が考案した具足形式「三斎流」の甲冑や、3代・忠利ただし (1586～1641)所用と伝わる変わり兜、鳥の羽根を全面に装飾した珍しい陣羽織など、美的素養を有する藩主たちが誂えた武具・戦着を、最新の調査結果を交えながら紹介します。戦の道具に託された武家男性の洒落た一面をお楽しみください。

#### 【開催概要】

展覧会名:令和3年度夏季展 「美しき備え—大名細川家の武具・戦着—」

会 期:2021年7月23日(金・祝)～9月20日(月・祝) ※会期中、一部展示替えがあります

会 場:永青文庫(東京都文京区目白台1-1-1)

開館時間:10:00～16:30 (入館は16:00まで)

休 館 日:月曜日(但し8/9・9/20は開館し、8/10は休館)

入 館 料:一般1000円、シニア(70歳以上)800円、大学・高校生500円

※中学生以下、障害者手帳をご提示の方およびその介助者(1名)は無料。

主 催:永青文庫

特別協力:熊本県立美術館

みどころ  
1

## これぞ細川家！ 武将自ら考案した形式の武具を紹介

2代・忠興(三斎)は、50回にもおよぶ自らの実戦経験から、軽量で実用性に優れた甲冑を考え出しました。この実用的な形式の甲冑は、忠興の隠居後の名から「三斎流」と呼ばれています。また、熊本のお国拵「肥後拵」は、忠興考案の拵を手本にしてつくられたもので、鮫皮(ほとんどはエイの皮)を用いて白の小紋を美しく表した拵などが知られています。これら「三斎流」の甲冑や刀装具など、熊本藩細川家ならではの武具の数々をお楽しみいただけます。

のぶながこしらえ  
「信長拵」江戸時代(18世紀)  
永青文庫蔵



くりいろかわつつみこんいといまげ  
「栗色革包紺糸射向  
くれないおとしまるどつくせく  
紅威丸胴具足」  
細川斉樹所用  
江戸時代(19世紀)  
永青文庫蔵(熊本県  
立美術館寄託)

みどころ  
2

## 武将のおしゃれ着！？驚異の陣羽織も登場！

武将が戦の場で着用する陣羽織。永青文庫には細川家の藩主たちが所用した陣羽織が20点以上伝来しています。なかでも「鳥毛九曜紋付陣羽織」は、鳥の羽根をほぼ全面に装飾した珍しい遺例です。羽根を1本ずつ丁寧に裂に留めつけ、羽根の種類や色を使い分けることによって、模様を表しています。本展にあわせて実施した作品調査では、本作がこれまで伝えられてきた制作年代よりもさらに古いと考えられることが明らかになりました。技巧を凝らした陣羽織を最新の調査結果とともに紹介します。



「鳥毛九曜紋付陣羽織」細川斉樹所用  
桃山～江戸時代  
(16世紀末～17世紀前半)  
永青文庫蔵

みどころ  
3

## 中世螺鈿鞍の名品

### 国宝「柏木菟螺鈿鞍」を期間限定展示

国宝「柏木菟螺鈿鞍」は、鎌倉時代につくられた貴重な鞍で、細川家初代・藤孝(幽斎、1534～1610)が13代将軍・足利義輝より拝領したと伝わります。螺鈿で精緻に模様を表した本作は、戦場で実際に使われたのではなく、儀式や神前への奉納などで使われたものと考えられています。



かしわみみずくらでんくら  
国宝「柏木菟螺鈿鞍」  
鎌倉時代(13世紀) 永青文庫蔵  
展示期間: 8/24(火)～9/20(月・祝)

## 記念講演会 「戦着の変遷—陣羽織を中心に—」

講師 長崎巖氏(共立女子大学家政学部教授/共立女子大学博物館館長)

日時 2021年8月28日(土) 13:30～15:00

会場 早稲田大学国際会議場 第二会議室

定員 50名

※ご来館に当たって事前予約は必要ございませんが、混雑時はお待ちいただく場合がございます。

※マスク着用の上、ご来館ください。当館の新型コロナウイルス感染拡大予防対策については、ホームページをご覧ください。

※新型コロナウイルス感染症の状況により、開館時間の変更または臨時休館となる場合がございます。

# ❀ 第1章 武将のシンボル ❀

戦国時代、戦場で活躍した細川家には、歴代藩主の甲冑をはじめとする武具が数多く伝わっています。なかでも「三斎流」と呼ばれる甲冑は、2代・忠興(1563～1645)が自らの実戦経験をもとに考案したもので、歴代の藩主がこれを踏襲したことから、細川家を象徴する武具となりました。それらの武具は、担当の役人によって熊本城内で管理され、大切に守り伝えられてきました。

第1章では、「三斎流」の甲冑のほか、始祖・頼有(1332～91)が建仁寺塔頭永源庵に納めた「白糸褌取威鎧」(重要文化財)など、細川家が代々お家の宝としてきた甲冑や鞍などを紹介します。



しろいとつまどりおどしよろい  
重要文化財「白糸褌取威鎧」  
細川頼有所用  
南北朝時代(14世紀)  
永青文庫蔵

# ❀ 第2章 命がけのおしゃれ ❀



うすちやひらしゃじんぼおり  
「薄茶緋羅紗地陣羽織」 細川忠利所用  
江戸時代(17世紀) 永青文庫蔵

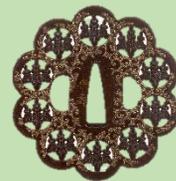
武将にとって陣羽織や鎧下着といった戦着はおしゃれアイテムのひとつ。鎧の上に着用する陣羽織には、高い実用性と視認性が重視され、外国産の裂が用いられたり、奇抜な意匠が取り入れられるなど、武将の個性が反映されています。また、鎧の下に着用する鎧下着は、表からはあまり見えないにも関わらず、細かな模様を華やかに表すなど、凝った意匠のものがつくられました。これらの戦着は、戦がなくなった時代にも、甲冑と同じように代々が備えました。

第2章では、南蛮服飾の影響がみられる陣羽織や、染の技法で模様を表した鎧下着など、細川家の人々が着こなした戦着をご覧ください。

# ❀ 第3章 武将のこだわり ❀

江戸時代、各藩で趣向を凝らした様々な拵が生み出されました。熊本藩では、2代・忠興考案の拵を手本として「肥後拵」がつけられました。また、熊本で展開された「肥後金工」は、細川家が抱えた金工師によってその土台が築かれ、鐔や縁頭に多くの優品が残ります。

第3章では、刀装具のほか、3代・忠利(1586～1641)所用の変わり兜など、藩主所用のバラエティー豊かな武具をお楽しみいただきます。



きりもんすかしからくさぞうがんつば  
「桐紋透唐草象嵌鐔」  
神吉楽寿作  
江戸時代(19世紀)  
永青文庫蔵

むらさきいすがおどしはちまきなりかぶと  
「紫糸素懸威鉾巻形兜」  
細川忠利所用  
江戸時代(17世紀)  
永青文庫蔵(熊本県立美術館寄託)

# ❀ 第4章 教養と嗜み ❀



かけわけちやわん めい ねんぼち  
「掛分茶碗 銘念八」 江戸時代(17世紀)  
永青文庫蔵

武家社会で重んじられてきた茶の湯や能は、武将たちにとって必須科目。そのため、それらにまつわる品々は大家家にとって欠かせないものでした。細川家には茶道具や能道具が多数伝来していることから、細川家の人々が武芸だけでなく、文化・芸能においても、高い見識と技能を身につけていたことがわかります。

第4章では、参勤交代に藩主が携行させた茶碗や、8代・重賢(1720～85)が使用した能の謡本など、細川家の殿様が愛用した品々を展覧します。

# 学芸員のイチオシ作品！ 「鳥毛九曜紋付陣羽織」

これまで細川家11代・<sup>なりたつ</sup>齊樹(1789～1826)所用として、19世紀に制作されたと伝えられてきた本作品。しかし、この度の調査により、16世紀末～17世紀前半に制作された可能性があることがわかりました。

17世紀中期以降の陣羽織は、実用性よりも見た目を重視した形式的なものがつくられていましたが、本作は使用されている素材や装飾、仕立ての手間のかけ方などから、実戦を想定したつくりになっていることが判明しました。素材は羽根のほか、木綿、和紙、薄綿、<sup>びろーど</sup>天鷲絨を使用し、雨天や冬場の戦に適したものを着用しています。本作のように鳥の羽根を用いた陣羽織は類例が少なく、貴重な作品です。



「鳥毛九曜紋付陣羽織」 細川齊樹所用  
桃山～江戸時代(16世紀末～17世紀前半)  
永青文庫蔵

## 【羽根に注目👁️】

羽根を1本1本丁寧にとめつけた超絶技巧！  
雉、鷺類の羽根を使用している可能性が明らかに



これだけの数の羽根をどのように装飾しているのか観察すると、羽根を1本ずつ裂に差し込んでとめつけていることが確認できます。気が遠くなるような作業です…。

山階鳥類研究所の協力による同定調査の結果、白い羽根は鷺類の可能性があり、その他の部分は雄の雉の羽根を用いていることが判明しました。

## 【素材に注目👁️】

実用性を重視した素材を使用  
これで寒い戦場も乗り越えられます！



羽根を留め付けた表地と、綿子の裏地の間には、和紙と薄綿が使われていることが明らかに。これは保温効果を高めるために使用されたと考えられます。また、首回りにも保温効果の高い天鷲絨の生地が使われています。

## 【形状に注目👁️】

騎乗、動きやすさが考慮されています

裾は逆ハート型の変った形をしています。騎乗の際に裾を捌きやすくするため、背中にはスリットが入っています。また、体を十分に動かせるよう、脇にもスリットが設けられています。さらに、襟は前を開いて固定できるつくりになっており、寒いときは襟を閉じ、ここぞという時は襟を開いて華やかな模様を見せつけます。



「鳥毛九曜紋付陣羽織」 前面(部分)

令和3年度夏季展  
 「美しき備え—大名細川家の武具・戦着—」  
 広報画像一覧

①「鳥毛九曜紋付陣羽織」 (背面)	②「鳥毛九曜紋付陣羽織」 (前面)	③「栗色革包紺糸射向紅威丸 胴具足」
		
④「信長拵」	⑤国宝「柏木菟螺鈿鞍」	⑥重要文化財「白糸袷取威鎧」
		
⑦「薄茶緋羅紗地陣羽織」	⑧「紫糸素懸威鉢巻形兜」	⑨「桐紋透唐草象嵌鐔」
		
⑩「掛分茶碗 銘念八」		
		

令和3年度 夏季展「美しき備え—大名細川家の武具・戦着—」  
広報画像申請書  
2021年7月23日(金・祝)～年9月20日(月・祝)

貴社名: 媒体名:

ご担当者名: ご所属:

TEL: FAX:

ご住所:

E-mail: 掲載予定日: 年 月 日

掲載概要:(コーナー名、画像の掲載サイズなど)

 読者プレゼント用チケット(5組10名様) ご希望の場合はチェックをつけてください。

※8月27日までにご紹介頂ける場合に限らせていただきます。※チケットはゲラの確認後に送付致します。

希望	No.	作品名	時代	所蔵
	①	「鳥毛九曜紋付陣羽織」 細川斉樹所用	桃山～江戸時代(16世紀末～17世紀前半)	永青文庫
	②	「鳥毛九曜紋付陣羽織」 細川斉樹所用	桃山～江戸時代(16世紀末～17世紀前半)	永青文庫
	③	「栗色革包紺糸射向紅威丸胴具足」 細川斉樹所用	江戸時代(19世紀)	永青文庫 (熊本県立美術館寄託)
	④	「信長拵」	江戸時代(18世紀)	永青文庫
	⑤	国宝「柏木菟螺鈿鞍」 ※展示期間:8/24(火)～9/20(月・祝)	鎌倉時代(13世紀)	永青文庫
	⑥	重要文化財「白糸褌取威鎧」 細川頼有所用	南北朝時代(14世紀)	永青文庫
	⑦	「薄茶緋羅紗地陣羽織」 細川忠利所用	江戸時代(17世紀)	永青文庫
	⑧	「紫糸素懸威鉢巻形兜」 細川忠利所用	江戸時代(17世紀)	永青文庫蔵 (熊本県立美術館寄託)
	⑨	「桐紋透唐草象嵌鐔」 神吉楽寿作	江戸時代(19世紀)	永青文庫
	⑩	「掛分茶碗 銘 念八」	江戸時代(17世紀)	永青文庫

## 【広報画像ご使用に際してのお願い】

※写真の使用は、本展覧会のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。

※展覧会名、会期、会場、作品名称、所蔵者を必ずご掲載ください。

※掲載誌は1部ご惠贈願います。

## 【個人情報の取扱いについて】

※ご記入いただきました個人情報は、当館からの展覧会情報のご案内にのみ使用いたします。

許可なく第三者に個人情報を開示することはございません。